



20年、人を想いつづけたことはありますか。



Semi Shigure

藤沢文学最高傑作

原作 藤沢周平「蝉しぐれ」(文藝春秋刊) 監督・脚本 黒土三男
 市川染五郎 木村佳乃 今田耕司 ふかわりょう 原田美枝子 緒形拳
 石田卓也 佐津川愛美 久野雅弘 岩淵幸弘 小倉久寛 根本りつ子 渡辺えり子 原沙知絵
 大地康雄 緒形幹太 田村亮 三谷昇 柄本明 加藤武 大滝秀治
 音楽・岩代太郎 (サウンド盤: コロムビアミュージックエンタテインメント)
 イメージソング「かざぐるま」—青筋 (コロムビアミュージックエンタテインメント)

「忘れようと、
忘れ果てようとしても、
忘れられるものではございません。」

藤沢文学の最高傑作「蟬しぐれ」が遂に映画化。
私たちの心を震わす感動の傑作小説が、15年の歳月をかけ堂々完成。



英雄でも偉人でもない「普通に生きる」人々の強さと優しさを一貫して描き続けた作家・藤沢周平。混迷する現代に一条の光のごとく感動を与え続ける藤沢作品の中でも、最高傑作と称されるのが「蟬しぐれ」です。物語は、貧しいながらもつつましく生きる文四郎が少年期から体験する辛苦と、そして幼馴染・おふくとの切なく美しい恋を縦軸に展開します。世間に誤解を受けて切腹させられる父への想い。父を恥じずに母を助け、賢明に勉学と剣に励み、初恋の人を一生想い続ける文四郎の姿に、120万人を超える読者が共感し涙したのです。数々のドラマが散りばめられた物語は、時代小説の枠を超えた最高のエンターテインメント作品と評されています。

藤沢周平が唯一映像化を認めた鬼才・黒土三男は、一切の妥協を許さない脚本作りに取り組み、構想から15年の歳月をかけ、小説以外では表現できないと言われた透明感を見事に映像化しました。主人公・文四郎を演じるのは、歌舞伎界を担う市川染五郎。その想い人・おふくに木村佳乃。また緒形拳、原田美枝子、今田耕司、ふかわりょう、大地康雄、加藤武、柄本明、田村亮、大滝秀治ら日本映画界最高の布陣が脇を固めました。そして、文四郎・ふくの子供時代を演じる石田卓也、佐津川愛美が映画初出演ながらも重要な役を瑞々しく演じ、作品のテーマとも言える「若々しさ」「清々しさ」を見事に体現しています。さらに、もうひとりの主役と言えるのが、美しい四季折々の風景です。特に原作のモデルとなった山形庄内地区では、ゼロから組上げられたオープンセットが厳しい自然と調和し、日本映画史に残る映像世界が生まれました。また、映画「蟬しぐれ」の世界に感銘を受けたアーティスト・青窈が、イメージソング「かざぐるま」を提供したことも大きな話題となっています。

モンテカルロ国際テレビ祭グランプリを獲得したドラマを手がけた黒土監督が、理想のキャストで、テレビでは到達できなかった世界観と人間描写、そして「日本人の気高さ」を徹底的に追い求め、まさに命をかけて映画を完成させました。今の日本を癒す感動の映画「蟬しぐれ」。本年度ベストワンの呼び声高い大作に、どうぞご期待ください。



【物語】

舞台は東北の小藩「海坂藩」。
下級武士である養父のもとで成長する牧文四郎。
父は藩の派閥抗争に巻き込まれ、冤罪によって切腹を命じられる。その後、謀反をおこした父の子として数々の試練が待ち受けるが、幼なじみたちの助けと、剣の鍛錬によって日々を質素に、そして懸命に母とともに生きる。ある日、筆頭家老から牧家の名誉回復を言い渡される。しかし、これには深い陰謀が隠されていた。文四郎は、藩主側室となり派閥抗争に巻き込まれた初恋の人・ふくを命懸けて助け出すことになる。その時、海坂藩には、悲しみをつんざく蟬の声が、いつまでも鳴き響いていた...

製作・保木盾夫 製作統括・森隆一 島谷能成 早河洋 美術監督・櫻木晶 撮影・釘宮慎治 照明・吉角莊介 録音・橋本泰夫 編集・奥田浩史 助監督・森宏治 記録・石山久美子 製作担当・坪内一 梶川信幸 エグゼクティブプロデューサー・遠谷信幸 プロデューサー・中沢敏明 宇生雅明 共同プロデューサー・田中渉 柴田一成 協力プロデューサー・瀬田一彦 青木真樹 ラインプロデューサー・吉田浩二 「蟬しぐれ」製作委員会 電通 セディックインターナショナル ケイセブン ジェネオンエンタテインメント 東宝 テレビ朝日 朝日放送 メーテル 朝日新聞社 東京都ASA連合会 www.semishigure.jp 文部科学省【選定】 ©2005「蟬しぐれ」製作委員会

10月1日(土) 感動のロードショー
特別鑑賞券発売中! (一般¥1,000)

有楽町マリオン・阪急側
日 劇 2
渋谷・道玄坂109前
渋谷シネタワー
☎ 03 (3574) 1131
☎ 03 (5489) 4210